

夕張市長
厚谷 司様

2019年 7月12日
日本共産党夕張市委員会
委員長 くまがい桂子

「北恵庭駐屯地創立69周年記念行事」チラシ全戸配布について

毎年実施されているこの記念行事は、これまで地元・恵庭市でも全戸に配布されることはなく、近隣他市町村でもほとんどの町で実施されていない。

駐屯地の記念行事にある、90式戦車の「体験搭乗コース」などは、子どもたちに、武器や軍隊でしか日本の平和を守れないかのような幻想を抱かせ、戦争への関心やあこがれをあおりかねないものである。

これを広く子どもたちをふくめて市民に案内することは、地方公共団体としてまったくふさわしくないことに加えて、夕張市は、1960年に「平和宣言都市」1986年に「核兵器廃絶平和宣言都市」として、子どもたちに向けた平和教育にも力を入れている。さらには、2015年には夕張市議会において「安全保障関連法案の徹底審議を求める意見書」が、2017年には「核兵器禁止条約に速やかに署名し批准することを求める意見書」「日本国憲法第9条改正に反対する意見書」が採択された。

そのまちが、兵器を公開・体験する記念行事について、全戸配布で広く宣伝を認めることは、一般に認知されている「災害援助の自衛隊」ではなく、「戦争するための自衛隊」というイメージの宣伝を自治体がかって出るものであり、武器は持たないと決めた平和憲法を遵守する自治体の役割としても、ふさわしいものとは到底考えられない。

先日、公示された参議院議員選挙で、9条改憲が大争点になる中、兵器を前面に出した自衛隊駐屯地記念行事の案内チラシが広く配られることは、選挙にも少なくない影響を与えかねない。慎重さにも欠けるものであり、断固抗議する。

以上の事から、今後二度とこのようなことが起きることのないよう、強く要請する。